



2025 年度政策検討会を開催しました！

2025 年 10 月 22 日に 2025 年度政策検討会を開催しました。7 会員生協 57 名が参加し、今年度はテーマとして「環境」「持続可能な社会」を取り上げました。

(文責・概要まとめ：事務局)



協同組合はよりよい世界を築きます

※2025 年国際協同組合年認定事業

開会挨拶（抜粋）

千葉県生協連 会長理事 打越和佳子



本年 2025 年は、国連が定める「国際協同組合年」です。私たち生協が果たすべき役割は、ますます大きくなっています。本年を契機に、県内生協、県内の協同組合とともに課題解決や社会発信に取り組み、県内における生協の価値を高めたいと考えております。

今年度は高村ゆかり先生をお招きし、SDGs 達成年の後も見据えて持続可能な社会、安全で安心な暮らしのために生協として何ができるかを学び、参加者で考え合いました。

＜講演＞ 「持続可能な社会づくりに向けた世界と日本の動きと課題～生協への期待」（抄）

講師 東京大学未来ビジョン研究センター教授 高村ゆかり先生

◆ 異常気象の「現実」：もはや未来の課題ではありません。

- ・今年の夏（6～8 月）は日本の観測史上最も暑く、直近 6 年間で年平均気温の上位を占めています。2024 年の世界平均気温は、産業革命前比で「1.5℃」を超過、国際社会が目指す「1.5℃未満」という目標達成は極めて困難な状況です。また、2019 年に千葉を襲った台風 15 号による大規模停電や、台風 19 号による全国 146 ヶ所の河川決壊など、近年の災害は激しさを増しています。



◆ 災害の「上乗せ」と生活への影響

- ・今、温暖化による被害の拡大が言われています。最新の研究によれば、台風 19 号の雨量は、温暖化がなかった場合と比較して約 13.6%「上乗せ」されていたと評価されています。この「上乗せ分」が防災の想定を超え、生活に様々な影響を及ぼしています。
- ・自然災害の増加・不透明化を理由に火災保険料は 2013 年以降 4 回も引き上げられるなど、「経済的損失」を生み出しています。
- ・今年の熱中症による搬送者は 10 万人を超え、その 6 割以上が高齢者です。また、屋外で働く人々の健康と安全も、猛暑によって深刻なリスクに晒されています。
- ・生物多様性の損失、水不足、コメの品質低下や収量減少など、食料安全保障にも直結しています。プラスチック問題も海洋汚染、生態系への影響に加え、化石燃料を原料とすることで気候変動も加速させる、複合的な問題の典型例です。

◆ 「グリーン・トランスフォーメーション（以下 GX）」：気候変動対策は社会課題解決に

- ・日本が目指す 2050 年の CO2 排出ゼロ社会は実現可能です。削減の 8 割は「再生可能エネルギー

一」「省エネ（効率改善）」「電化」という既存の3つの技術で達成できます。

- ・GXは、単なる気候変動対策だけが目的ではありません。「エネルギー安全保障」の面では、国内の再生エネルギー利用で克服できます。また、輸出による利益（約30兆円）の大半（約26兆円）が燃料輸入費として海外に流出する構造を変え、「国内経済の活性化」が図れます。他にも東京都の太陽光パネル設置義務化などの「省エネ性能の高い住宅」（ZEH）（室内温度差をなくし「健康（血圧低下など）」にも寄与）、千葉県睦沢町の「レジリエンス（災害対応力）」、千葉県匝瑳市の「農業再生」などの事例も挙げられます。



◆生産者と消費者を「つなぐ」力に期待します。

- ・生協の強みは、地域に根ざした「生活者」自身が運営している点にあると言えます。
- ・生協が持つ「生産者と消費者をつなぐ」力は、気候変動時代において非常に重要なものとなります。気候変動対策を「地域の課題（防災、健康、農業の担い手不足など）」を同時に解決するチャンス」と捉え、生協の強みを活かして何ができるかを考えていただきたいと思います。

思います。

《活動報告》 3生協から環境に関する活動報告をいただきました。

1. デポー発『エコな取り組み』 生活クラブ生協理事 本橋美里さん、竹原久美子さん
店舗（デポー）におけるプラスチック削減（脱プラ）の取り組み

2. 2025年度環境推進活動 パルシステム千葉 総務部部長 古橋賢一さん
配送車をガソリン車からEV車に転換するなど、環境負荷削減の取り組み

3. 「ビーチクリーンの取り組み」 コープみらい理事 高山由美子さん、
千葉3区ブロック委員長 村田綾さん 千葉4区ブロック委員長 高橋有美子さん
千葉5区ブロック委員長 鈴木智恵さん
組合員や漁協、地域などと連携しておこなったビーチクリーンの取り組み

グループディスカッション後の全体交流を受けて、高村先生にまとめの言葉をいただきました。

〇まとめの言葉

- ・社会を変えるには多くの人の行動変革が必要であり、生協はその受け皿として、産直などで培った力をさらに発揮してほしいと思います。また発電事業に限らず、米や野菜などの「ものづくり」においても、生産者と協力して「持続可能な生産方法」を追求できることを意味します。こうした取り組みは、生産者には付加価値（競争力）となり、生協には事業全体の環境負荷低減につながる「Win-Winの関係」を築くことができます。

最後に「生協は、社会（特に消費）を変える本当に大きな力を持っている」と強調され、ポテンシャルを活かした今後の活動に強く期待しています、と結ばれました。

参加者の感想

- ・脱炭素社会に向け、「生協は『（商品や活動など）選択肢の提示』『持続可能な生産』『協同の力』で、消費行動、社会を変えられる」との言葉に、強く励まされました。
- ・各生協の活動事例をどのように自分の活動に活かせばよいかと考えてしまいましたが、先生のまとめの言葉でたくさんの気づきを得ることができました。
- ・環境問題は、生協の枠を超えて取り組むべき課題だ、と捉えました。